

## パブリック・コメント手続きの実施結果について

### 1 案 件

- (1) 新東名高速道路秦野S A（仮称）へのスマートIC誘致実現化について
- (2) 秦野S A（仮称）スマートICを活かした周辺土地利用構想（案）について

### 2 募集期間

- (1) 議会 平成26年4月16日（木）～6月 4日（水）
- (2) 市民 平成26年5月 1日（木）～5月28日（水）

### 3 意見、提案等の募集方法

広報はだの5月1日号及びホームページ

### 4 意見、提案等の提出場所・方法

- (1) 提出場所 各公民館・連絡所、図書館、行政情報閲覧コーナー（本庁舎）、  
新東名周辺整備担当事務室
- (2) 提出方法 郵送、FAX、電子メール及び持参

### 5 意見交換会等の実施

- (1) 秦野商工会議所常議員会 5月9日（金）
- (2) J Aはだの 5月16日（金）
- (3) 北地区みんなで住み良いまちづくり運動推進委員会、北地区自治会連合  
5月26日（月）

### 6 提出された意見（79件）、提案等の内容及びその取扱い

内 容 分 類		件数	意見への対応区分（※）			
			A	B	C	D
スマートイン ターチェンジ	スマートIC整備、実現化等に関する事	25	0	3	10	12
	必要性、整備効果及び地域活性化等に関する事	18	2	2	7	7
土地利用構想	全般的事項に関する事	13	2	1	6	4
	土地利用の導入機能、ゾーニング等に関する事	14	2	2	8	2
	企業誘致等に関する事	5	1	0	4	0
	その他（感想、質問など）	4	0	0	0	4
計		79	7	8	35	29

（2014.6.20 時点整理）

#### （※）区分

- A：意見等の趣旨等を構想等に反映したもの  
 B：意見等の趣旨等は既に構想等に反映されていると考えるもの  
 C：意見等の趣旨等を構想等に反映することは困難だが、施策展開で参考とするもの  
 D：内容に関する質問・感想等、その他のもの

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
1	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの実現案では、工業振興と産業活動の利便性および企業立地促進を謳っていますが、それであれば、大型車専用の「休憩ヤード」のようなものも必要です。現在市内では、納品待ちなどのトラックは、時間調整のために幅広の道路脇に駐車しているなどの光景を目にしますが、市内にそういうトラック専用のヤードがあれば道路脇に駐車せずに済み、企業としても安心・安全に物流の確保が期待できます。また、トラック運転手にとっても、安心・安全に休憩できるという精神的な安堵感や余裕も生まれます。	C	・トラックヤードについては、市が設置することは考えておりません。企業に対して、トラックが路上駐車しないように開門時刻の見直しや運送業者等の関係者に対して駐車マナーの向上に関する指導をしてもらうよう、違法駐車防止に向けて協力をお願いしております。今後も秦野警察署と連携を図り違法駐車防止に取り組んでまいりますのでご理解くださいますようお願いいたします。 ・企業誘致にあたっての土地利用では、周辺環境へ配慮するなど、関係課との調整します。
2	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	大型車専用の休憩スペースとともに、ちょっとした飲食も出来る施設を設ければ、トラック運転手の間で評判になり、通過するトラックにも途中で利用してもらえる可能性が開けます。イメージ的には八沢にある「みや古食堂」のような感じです。食事の内容や価格もさることながら、止められるスペースが確保されていることが、利用されている理由として大きい気がします。そういう専用ヤードを秦野SA内に設けることもできますが、それであればなおさらのことスマートICは大型車の通行が可能な仕様にするべきだと思います。	C	参考意見とさせていただきます。なお、本市では、スマートIC実現化にあたっては、フルインター形式・24時間運用、車長12m以下のETC車載器を搭載した全車種を目指しています。
3	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	基本的にスマートICの利用はETC装着車に限られるが、実現案で述べているような地域の効果や発展性を期待するならば、装着率が相対的に低い2輪車やETC未装着車に対しての、「ETC啓蒙や補助」などを、行政として積極的に推進する必要があると考えます。	D	スマートICの利用交通量の検討にあたってはETC利用率90%として算定しています。ETC装着者の普及はかなり進んでいると思いますが、助成制度等については、全国的な問題でもありますので、市単独での助成は検討しておりません。
4	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	海老名サービスエリアのように、高速道路のサービスエリア内外に自由に出入りできるようにする。	B	中日本高速道路(株)では、秦野SA(仮称)に、一般道からも利用できる駐車施設「ぶらっとパーク」の併設が検討されており、出入りできるようになる予定です。
5	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICが設置されれば、地理的条件から、首都圏と関西圏を結ぶ物流の中継基地としての可能性が高まる。そうした長期的視点を踏まえた土地利用や道路網等の基盤整備を考える必要がある。	C	ご意見を踏まえて、土地利用や道路網等の基盤整備を検討してまいります。
6	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの整備は、国では、円滑な導入を図るため、整備箇所における導入効果、整備に伴う運営上の課題等の把握をするため、まず6か月程の社会実験を実施し、その上で一定の便益や採算性が確保できることを実証して、初めて実施するか否かを決定する。本市はどの段階にあるのか。本市のスマートICは非常に厳しい状況にあると認識している。	B	スマートICの先行導入事例では、社会実験を実施し、一定の便益や採算性が確保できることを実証して本格導入されました。その後、平成21年2月に、スマートICの制度改正により、社会実験が廃止されました。したがって、予め交通需要予測調査に基づく費用便益比の試算や、スマートICの必要性や整備効果等について、関係機関(市、県、国交省、NEXCO中日本)との実務協議において検討を進める必要があります。市では、着実に検討を進めており、今後は、スマートIC及びアクセス道路等の道路設計協議を進めてまいります。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
7	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICを実現するためには、スマートICの制度上の便益(走行時間短縮便益など)以外に地域経済への影響などの便益にも目を向ける必要がある。	B	現行制度では、スマートICが整備されることによる便益は、交通需要予測調査を基に、走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益によって社会便益を算出しています。ご意見のとおり、この社会便益の効果によって、即座に商工業や経済の発展へ結びつくものではありません。あくまで、インフラ整備でありますので、この機会を逸することなく、商工会議所をはじめ市内企業、商業者等と連携して、進めていきたいと思えます。
8	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	県内では、複数の自治体でスマートICを目指しているが、秦野は厳しいとの情報がある。現在本市の進捗状況は、どうなっているのか。	D	県内では、既に国の連結許可が出た、神奈川(東名高速道路、綾瀬スマートIC)のほか、新東名では、山北町(本線直結)と秦野市(秦野SA(仮称))がスマートICの実現化を目指しています。また、さがみ縦貫道では、厚木市(厚木PA)、横浜横須賀道路では、横須賀市(横須賀PA)が希望しています。市では、平成24年11月に市、県、国交省、中日本高速道路(株)による実現化検討準備会を設置し、関係機関との実務協議を進めています。交通需要予測調査に基づく費用便益比の試算や、スマートICの必要性、整備効果等について、一定のご理解を得てきている状況です。今後は、さらにスマートIC及びアクセス道路等の道路設計協議を進めてまいります。
9	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートIC実現に向けた、現状の検討状況と今後の進め方は分かったが、スマートICの整備は、ほぼ難しいという話を聞いた。話の出所と根拠は不明だが、政治的なアプローチ、決着という事が必要なのではないか。	C	スマートIC制度の協議案件について、国や中日本高速道路(株)との調整を進め、実務レベルでの合意を得ることが前提になりますが、適切なタイミングで国土交通省への働きかけを行っていきたく考えています。
10	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	現東名高速道路の開通時には、秦野市にはインターチェンジがなかった。現在の秦野中井インターチェンジは、昭和56年に請願インターという形で整備されたものである。当時の状況は、市、県、建設省や国会議員といった為政者間の問題という側面も強くあり、東名開通の当初から設置されず後付けの整備となった。その結果として、秦野市は相当の予算を注ぎ込む形となった。ぜひ、スマートIC誘致には、神奈川県との事業協力や後押しを頂けるように調整して進めてほしい。	C	スマートICの発意者は、秦野市であります。産業や観光の活性化、防災力の向上など、神奈川県にとっても大きなメリットがあります。現在、神奈川県との支援のもとに、スマートICの実現に向けて取り組んでいます。今後、市と県のスマートIC整備の事業区分についても協議していきます。
11	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの進捗状況は、具体的に国等からの段階まで了解を得ているのか。また、スマートICを活かした土地利用構想のゾーニングやイメージ図についても、国の了承を得ているのか。	D	現行制度では、スマートICの設置要件である①費用便益比(1.0以上)、②採算性(管理運営費が捻出できること)、③必要性や整備効果については、国や中日本高速道路(株)との実務協議で一定の理解を得ています。土地利用構想については、スマートICの設置要件ではありませんが、スマートICの必要性を訴えるため、土地利用構想案を国に資料提供しています。
12	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	NEXCO中日本でサービスエリアのレイアウトは、確定し明らかになっているのか。	D	現在、秦野市においてスマートICの道路設計を進めており、中日本高速道路(株)のご協力をいただき、SAのレイアウト調整を進めています。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
13	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの誘致や整備は、地元発意ということだが、今後事業費の問題や財政負担の問題も出てくると思うが、整備に伴う費用を市が全額負担しなければならないのか。市が全額負担ということとなれば、負の遺産を市民に残すことにもなりかねないので、財政負担の問題をどのように考えているのか。	C	スマートIC制度に基づき、国、高速道路会社、地方公共団体の事業区分が決められます。料金徴収施設から外側は地方公共団体負担となりますので、連結道路や県道へのアクセス道路は、市の負担となりますが、交付金等の活用可能性について検討を進めてまいります。
14	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの誘致は、神奈川県内で4カ所あると聞いているが、近隣市の進捗状況は共有され把握しているのか。また、どのような状況にあると認識しているのか。	D	横須賀市、厚木市では、既に供用している高速道路のPAへスマートIC設置を目指しています。一方、山北町、本市では、スマートIC制度の対象路線(新東名市町区間)となったのが、平成24年と遅い状況です。県の情報提供では、いずれも早期実現を目指して進めている状況と認識しています。
15	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	・スマートICの維持管理費に、NEXCO中日本では、約5,000万円程度掛るようであるが、この維持管理費をペイできるスマートICの利用交通量は、最低どのくらいが必要なのか。 ・周辺土地利用構想を進めていく上でも、秦野SA(仮称)のコンセプトやイメージを想定しておくことが必要と思う。来訪者がサービスエリアを出たらコンセプトと街が全く違うといった印象の乖離が生じないようにすることが大切だと思う。	C	・採算性については、スマートICが整備されることによる誘発交通量(転換ではなく新たな利用量)や、利用車両の走行距離を推計して算出していますので、利用交通量だけでは判断できません。 ・秦野サービスエリア(仮称)のコンセプトやイメージについては、市からも中日本高速道路(株)へ提案していきたく考えていますので、ご意見を参考とさせていただきます。
16	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	県内では、スマートICを横須賀市、厚木市、秦野市、山北町が誘致に向けて精力的に動いている。聞くところによると、県内では1か所か2か所しか許可されないという話もある。市ではどのように認識しているのか。1か所しか許可されないくらいの危機感を持って取り組んでいただきたい	D	横須賀市、厚木市では、既に供用している高速道路のPAへスマートIC設置を目指しています。一方、山北町、本市では、スマートIC制度の対象路線(新東名市町区間)となったのが、平成24年と遅い状況です。県の情報提供では、いずれも早期実現を目指して進めている状況と認識しています。
17	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートIC実現に向け行政の各担当部署で努力しているのは良くわかるが、この問題は、県政、国政へのアプローチという政治的動きも必要と感じる。	C	スマートIC制度の協議案件について、国や中日本高速道路(株)との調整を進め、実務レベルでの合意を得ることが前提になりますが、適切なタイミングで国土交通省への働きかけを行っていきたく考えています。
18	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	景気低迷の中で物流関係の企業は、高速道路は利用料金が掛かり、また、輸送コスト削減の面からもスマートICを利用して新東名高速道路を走らないのではないかと思う。国道246号を使って東京方面、あるいは静岡・名古屋方面を利用すると思う。	D	平成24年4月に新東名高速(御殿場JCT～三ヶ日JCT間)が開通しており、調査では、開通前の東名と開通後の東名・新東名の平均交通量は、約73.2千台/日から約84.3千台/日(東名:44.2千台/日、新東名:40.1千台/日)に約15%増加しています。また、生産・物流拠点の立地や観光の振興など地域経済に波及効果が現れているとされています。 なお、スマートICは、高速道路の活用促進に資するものと認識しています。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
19	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	土地利用構想では、戸川公園や丹沢といった秦野の自然環境に恵まれた地域特性を生かした導入機能を掲げている。そうであれば、新東名が出来てスマートICが出来れば、来訪者は主に東京方面から、秦野の自然を求めて訪れると思う。東京の知人の芸術家などは、みな秦野の良さは自然豊かなところと言う。そもそも新東名高速道路の建設は反対だが、あえて言えば、下り線のスマートICから、わざわざ外周道路を経由して戸川公園へアプローチするのではなく、高速道路の本線又はサービスエリアから直接戸川公園に行く出口を設けられないのか。	D	スマートICが設置されれば、県立戸川公園へのアクセスが格段に向上し、多くの来訪者が予想されます。サービスエリアから直接公園へ行くことはできませんが、公園への誘導について検討してまいります。
20	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	県内の市町で、スマートICを誘致しているところが4つあると聞いているが、すべて新東名高速道路なのか。県内では、いくつ国の連結許可がされるのか。急いでいる理由は何か。	D	現在、本市のほかにも、横須賀市、厚木市、山北町がスマートICの実現を目指しています。スマートIC制度の要件を満たしていれば、箇所数の制約はありません。 連結許可後の用地買収など整備スケジュールを考えると早期に許可を取得する必要があります。また、連結許可により、地域活性化の機運が盛り上がると考えています。
21	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	市長もスマートICの誘致には全力で任期中に道筋をつけたいといっている。関係機関との実務協議は前に進めてほしいが、為政者(国土交通大臣)への直接的な要望ということも必要ではないか。どのタイミングで動き掛けるかなど、様々な観点から検討していただきたい。我々も協力したい。	C	スマートIC制度の協議案件について、国や中日本高速道路(株)との調整を進め、実務レベルでの合意を得ることが前提になりますが、適切なタイミングで国土交通省への働きかけを行っていきたくと考えています。
22	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICを検討する上で、地方の高速道路のスマートICは、高速道路に乗るだけの、降りるだけのものがある。また、スマートICを利用する車両の制限もあるが、秦野市はどのような規格のスマートICを検討していくのか。	D	本市では、上下線両方向のフルインター形式・24時間運用、車長12m以下のETC車載器を搭載した全車種を目指しています。
23	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	土地利用の構想段階や行政が進める法に基づく都市計画手続きなどは、ユニバーサルデザインという考えではないため、構想段階で個人々々へ、説明するのは困難だと思う。しかし、スマートIC誘致の反対者や心配者は、交通量が増加し、地元の生活道路が渋滞を起こすことへの心配である。	C	スマートICの実現には、地域の理解と協力が重要になります。今後も引き続き、地域や関係団体等に対して周知を図ってまいります。
24	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	地元がスマートICの誘致について賛同しているのは、矢坪沢を埋め立て沢沢駅前落合線に連結する道路を整備することが前提にあるからだ聞いた(参加者の1名)。保安林に指定されている矢坪沢に道路を築造するには、20年はかかると思うが、スマートIC整備までに、この道路の整備を前提という話は本当か。	D	スマートICの誘致については、地元で賛同していただき、後押しをさせていただいておりますが、道路整備を前提にした説明は一切していません。
25	スマートインターチェンジ	スマートIC整備、実現化等	スマートICの利用台数は、約4,500台/日ということだが、そのほとんどが県道705号を利用することになる。県道705号をはじめ、周辺道路が混雑、渋滞を招くことはないのか。	D	周辺道路への影響については、安全対策の検討をしており、県道も含め関係する道路管理者、交通管理者及び地元等との協議・調整を行う中で、必要な対策について検討を進めます。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
26	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートICの必要性について、工業振興と産業活動の利便性を謳っている。曾屋原地区工業地ではその効果として、秦野中井ICよりもスマートICを利用することで10分の短縮、また、堀山下地区工業地では12分の短縮効果をPRしている。スマートICのほとんどは、トラックなどの大型車の通行ができません。この実現案でも、特に大型車の通行に配慮した記述は見当たりませんが、工業振興と産業活動の利便性を謳うのであれば、大型トラックなどの運搬車の通行を可能にするスマートICにしないと意味がないと思う。	C	関係機関との実務協議段階のため、明記していませんが、商工会議所や法人市民等との要望等を踏まえて、本市では、スマートIC実現化にあたっては、フルインター形式・24時間運用、車長12m以下のETC車載器を搭載した全車種を目指しています。
27	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	地域活性化や救急・救命活動の向上を目指し、スマートICの効果を期待するならば、最低限「大型車通行可能」、「24時間化」は是非とも実現して欲しい。	C	ご意見のとおり、本市では、本市では、スマートIC実現化にあたっては、フルインター形式・24時間運用、車長12m以下のETC車載器を搭載した全車種を目指しています。
28	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	新東名や246号バイパスの「正の効果」ばかり謳っていますが、人やモノの流れが“市内から市外へ吸い上げられる”あるいは“通過されて市内に下りてこない”ことの「負の効果」にも言及が欲しい。市民の生活や地元の商業・産業にとってはむしろそっちの方が大事で、246号沿線の店舗や観光地はどうあるべきか、どうするべきかという対策や指針も必要です。一例を挙げれば、「じばさんず」の集客はどうなっていくのかということです。「じばさんず」的な内容の施設はSAにもできて、市民も「ぶらっとパーク」を利用できる仕組みになります。そうすると県内有数の集客数を誇っている「じばさんず」をどう位置づけていくのか。現行246号に「道の駅じばさんず」として再活性化を図っていくのか。そういう負の部分も含めて提示して、総合的に「新しい高速やICができる秦野市は、どうあるべきか」というしっかりしたビジョンを示してこそ、真の構想のような気がします。	C	・交通需要予測調査を実施し、必要性や整備効果等を前提に検討していますのでご理解ください。また、スマートIC実現化を目指し、要望をいただいておりますJAはだのや商工会議所とも連携し、先進事例視察調査等を実施し、各々の立場で課題等の問題意識をもっていたいただいていると認識しています。 ・「じばさんず」に代表される直売所は、現在市内に10か所程度ありますが、それぞれ特色をいかした品ぞろえ等で好評を博しています。北地区には、土日等の臨時的なものを除き直売所がありませんので、関係団体等と協議・調整を行い、供給量・担い手をよく吟味しながら、過度の競争を招くことのないような施設の設置を検討していきます。
29	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	新東名&246号バイパスができることで、当然現行の国道246号の交通量が減ることが予想されますが、その予測や影響については何も言及していない。	B	スマートIC実現化に向け、新東名高速道路が整備されることを前提として整備効果や必要性に関する検討を実施しています。また、国道246号バイパス等の新たな道路ネットワークの整備により、国道246号から交通が転換し、渋滞の緩和・沿道環境の改善等にも資するものと認識しています。市民への広報資料ですのでご理解ください。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
30	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートIC誘致で地域活性化を図る。(例/その1) 「丹沢アートフェスティバル」は「秦野市後援」にする。 ①秦野スマートインターチェンジから新緑の丹沢山麓、秦野盆地アートフェスティバルへ ②4月29日(祝)～5月31日、長期に開催している新緑の「丹沢アートフェスティバル」へ誘客し、地域活性化を図る。 ③SAに地域情報発信コーナーを設置する。 ④たばこ祭会場への臨時バスをSAから発進 ⑤SAから丹沢まつり会場を結ぶ。	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①②参考意見とさせていただきます。</li> <li>・③SA内または周辺施設の中で観光案内所を設置することについては検討課題ですが、何らかの形で観光情報を発信することは必要と考えます。</li> <li>・④⑤SA外部に発着場所を設定して臨時バスを運行することは可能と思われますが、SAは駐車場としての利用は認められていませんので自家用車をSAに駐車するうえ臨時バス、周辺バス停からの路線バスを利用することは困難と思われます。周辺駐車場整備が前提となり関係機関と調整しながら検討が必要と考えます。</li> <li>・④たばこ祭開催時には会場に近い本町中学校、南中学校等を有料駐車場として、図書館裏のカルチャーパーク駐車場を「パークアンドバスライド」の駐車場として利用していただいているため、SA周辺からシャトルバスを運行しても利用が少ないと考えます。</li> <li>・⑤丹沢まつりの山開き式会場である戸川公園は、秦野SAと至近距離でありシャトルバスの運行は必要ないと考えます。また、一方の会場である西中学校界隈につきましては大倉バス停から渋沢駅行きのバスを御利用いただくこととなります。</li> </ul>
31	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートIC誘致で地域活性化を図る。(例/その2) ①「風の通り道」でウォーキング ～「ウォーキングで標高100メートルを歩こう」～ ②ウォーキング大会の開催 ③秦野駅から神奈川県立秦野戸川公園へ。秦野SAもコースに入れる。 ④秦野駅から弘法山へ	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①②③秦野駅から戸川公園は既存ハイキングコース「水無川コース」として設定されており、歩行距離7.4キロ、歩行時間2時間5分となっています。観光ボランティアによるハイキングイベントは検討可能と考えます(平成26年度上半期は実施なし)。なお標高差100メートルは同ハイキングコースの平和橋から戸川公園までに該当します。</li> <li>・④「弘法山コース」として設定済み(秦野駅～弘法山～吾妻山～鶴巻温泉駅)で、ハイキングガイドにて紹介しています。観光ボランティアによるハイキングイベントは桜の時期である3月末に実施しています。</li> </ul>
32	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートIC誘致で地域活性化を図る。(例/その3) ①水無川河畔の掲示板(秦野駅からの距離)に標高を入れる。 ②行政施策に「秦野盆地」地形の視点を入れる。 ③公共施設に標高を入れる。 ④民間企業にも依頼する。 ⑤同じ標高が新しい目安の住所になる。	D	<p>秦野駅から戸川公園は既存ハイキングコース「水無川コース」として設定されており、歩行距離7.4キロ、歩行時間2時間5分となっています。秦野市内のハイキングコースを掲載した「はだのハイキングガイド」にハイキングコース中の橋梁までの距離と標高を掲載しています。その他参考意見とさせていただきます。</p>
33	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	もっと戸川公園との連携を図る必要がある。山ブームによる登山客も多く、戸川公園には、ロッククライミングやバーベキュー場があり、近くにはいちご狩りや農園もある。その反面、近くに住む人にとっては、騒音、公害、ごみなど、マナー対策を今から講じていく必要がある。今年、戸川公園にチューリップを見に来る車の渋滞ができ、飲食物を探す人が多くいました。また、戸川公園からうぐいす橋の下まで、バーベキューが行われ、迷惑駐車やごみの捨ておきが目立つ。同様な問題の多摩川の取り組みを参考にしてほしい。 (参考) 多摩川では、騒音、ゴミ、マナーの悪さに困り、河川でのバーベキュー条例を制定し、入口で利用にあたっての書面に同意し、有料としている。ゴミは、河川沿いの指定場所に置いてよい。マナー違反者は、退場させられます。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸川公園との連携に関しては、利用者会議を通じて連絡調整を行っています。市関連の事業についても戸川公園を利用することがありますので、その都度連携できるよう調整してまいります。</li> <li>・ごみの不法投棄行為を未然に防止するため、現場に張り紙をするなど利用者のマナー・モラルに呼びかけていきます。また、河川管理者である県平塚土木事務所、地元ボランティアとも連携して、巡回パトロール等をして対応していきます。</li> <li>・戸川公園における車の渋滞や違法駐車に関しては、順次見回り等を行い、警察とも連携・協力しながら対応してまいります。</li> </ul>

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
34	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	市町村が「ゆるキャラ」を用いて活性化を図っている中、旅行へ行った時、「秦野」と答えてわかる人は減多にいない。スマートICやサービスエリアができることによって、知名度が上がり、興味の持てる市になると思う。	C	秦野市観光協会のPRキャラクターである「丹沢はだの三兄弟」は全国植樹祭を機に生まれたキャラクターです。小田急線のターミナル駅、道の駅での観光キャンペーンや、市関連行事等で活躍しており、秦野SAが開設されましたら、SA内での観光PRも検討してまいります。
35	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートICができることによる効果等について、次の事項が期待されます。 ①工業団地に近く高速道路への距離が短い ため、街中の渋滞が緩和する。 ②早朝のトラックで会社入門待ち時間合わせの路上駐車が防げる。 ③トラックのトラックで会社入門待ち時間合わせの路上駐の昼食時に駐車場に苦慮している現状があり、物流に配慮した環境が必要。 ④サービスエリアの近隣に観光施設があり、観光のためになる。 ⑤スマートICの設置に伴う施設の立地により、観光、福祉、農産品、産業の宣伝と秦野市の場所が全国に知れ渡り、知名度が高まり活性化につながる。	B	ご提案については、スマートICができることによる整備効果があると認識して進めてまいります。
36	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートICの整備効果として、インターチェンジまで10分圏域となる人口増加(約1万7千人増)を謳っているが、その根拠が示されていません。どのような根拠に基づいて試算した数値なのか。	D	市内を40ゾーンに分割設定し、スマートICの利用圏域を予測しています。その結果を基に、利用圏域の人口を考慮し、算出しています。
37	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	P5で、戸川公園利用者50万人をさらに増やす効果云々とありますが、現在の利用者はこのうちのどれくらいが市外からの利用者で、かつマイカーなのか？そこまでの内訳の提示がされていないと、数字だけが一人歩きするような気がします。スマートICから降りて、戸川公園にやってくる想定は果たしてどのくらいあるのか？あるいは相乗効果は具体的にどういふものなのか？そういうところまでの言及がないと説得力に欠ける気がします。	D	県立秦野戸川公園利用者については、神奈川県入込観光客調査(出典：県観光振興対策協議会)の動向から捉えています。可能な範囲でご指摘の観点も踏まえて検討してまいります。
38	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートインターチェンジ付近の利用として、「じばさんず」が好調なこともあるので、サービスエリアに併設して、そこで地場産野菜等を販売する。	C	参考意見とさせていただきます。
39	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	ヤビツ峠は自転車スポットとして定着していることから、アクセスの良さを利用して、サービスエリア内に車を置いて、そこから自転車でサービスエリアの外へ出て、ヤビツ峠に登るようにする。	D	サービスエリア内に長時間にわたり車を駐車すること、車両を放置したままサービスエリアから立ち去ることは禁止行為です。スマートICを利用したうえで外部の駐車場に車を止め、御提案のヤビツ峠に登ることは可能であると考えますが、戸川公園来園者や登山者等の状況を把握したうえで外部駐車場の整備が必要となります。



◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
40	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	サービスエリアの外に、簡単な宿泊施設やテントサイトを併設できると、なお利用の幅が広がります。ゆくゆくは、ヤビツ峠から宮ヶ瀬湖までの自転車レースでもできたら楽しいのではないかと。	D	幕営については都市公園法、自然公園法で制限されていることから公園内での幕営場所の提供は難しいと考えます。宿泊施設や幕営場所の設置については、周辺整備を行う中での検討課題と考えています。
41	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	スマートICの整備効果として、市内の「産業活動の活性化と企業立地の促進及び雇用創出」とあるが、直接雇用の創出につながるようになるのか。企業誘致条例を改正して雇用奨励促進の補助を緩和したが、実績がない状況にある。環境産業部の商工課の施策などとも連携して取り組んでいく必要がある。	C	スマートICの利便性を活かし、誘致する企業の業種については、雇用の創出につながるなど総合的に検討するとともに、「市企業等の立地及び施設再整備の支援に関する条例」に基づき支援するなど、施策と連携して企業誘致に取り組みます。なお、条例による雇用促進奨励金の交付は、平成26年度に一社の適用が見込まれます。
42	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	県西部地震や東海地震等の切迫性が指摘される中で、大規模災害が発生した場合に、本市は、現東名高速道路や国道246号が寸断されれば、救援・復旧活動に大きな支障を及ぼす。本市にとってスマートICの整備は、代替ルートを確保でき、災害対策に大きく寄与する。ここが秦野のスマートICの売りである。	A	ご意見のとおり、スマートICの整備により、復旧活動の迅速化、広域避難場所等への物資の搬送等、スマートICは、大規模災害時の防災拠点として大きな役割を果たすと考えています。
43	スマートインターチェンジ	必要性、整備効果及び地域活性化等	秦野市は、平塚市、大磯町、二宮町といった海岸沿岸部からかなり内陸部に位置する。津波の心配も比較的小さい。神奈川県にとっても秦野サービスエリア(仮称)が、食料等の災害備蓄の拠点となる。ここにスマートICが出来れば、本市はもとより、近隣の市町にもメリットがあるので、神奈川県にも働きかける必要がある。	A	スマートICを実現するためには、市域を超えた広域的な観点から必要性や効果を示す必要があります。ご意見を参考とさせていただき、近隣市町への寄与・貢献について、神奈川県等に発信していきたいと考えています。
44	土地利用構想	一般的事項	P5で“空中庭園 スカイガーデンHADANO”という文言が出てきますが、この言葉からイメージされる具体的なコンセプトが分かりません。何が空中なのか？何がスカイなのか？秦野ICの上下線に確保される土地利用のことを言っているような気もしますが、どうもピンと来ません。言葉に踊らされない土地活用のメルクマールの提示を望みます。	A	新東名高速道路に予定されている秦野サービスエリア(仮称)は、新東名全区間に整備されるサービスエリアやパーキングエリアで、最も標高の高い位置(約250～300m)に整備されるため、コンセプトとして表記させていただきました。ご意見を踏まえて、表記を工夫いたします。
45	土地利用構想	一般的事項	全般的なトーンとして、新東名&246号バイパスに伴うIC周辺部の開発構想に終始していますが、そもそも開発によって出来上がる施設や観光インフラを利用してほしいターゲットは、「市内在住者(市民)」なのか「市外通行者」なのかが非常に曖昧です。 こういう高速を利用して、市内を素通りせずに“ICからわざわざ秦野に降りてもらおう”魅力付け・動機付けとするには、いさかパンチ不足のような気がする。単に“周辺部がこうなりますよ”的なトーンでは、魅力の訴求は難しいと思います。 「周辺部が変わる＝魅力向上」と短絡的に結び付けようとしていますが、どういう利用者を狙っていくのか、観光客なのか、市民なのか、そのターゲット像も合わせて考えていかないといいませんが、この構想ではそのあたりのイメージが薄く物足りません。“こういう人に来て欲しいから、こういう構想にします”という具体的なニュアンスが欲しい。	C	この構想では、地域活性化の方針の一つとして、自然環境を活かした観光・スポーツ・レクリエーション機能の導入の基本的な考えを示しています。この構想と並行して定めた観光振興基本計画では、「新東名サービスエリア周辺の観光・交流・情報発信の拠点形成」として、主要ターゲットを掲げて整理しています。この構想の実施計画段階では、ご意見のとおりターゲット像も考えていく必要があると考えています。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
46	土地利用構想	全般的事項	構想のテーマとして、“人と人・人と自然が出会いふれあう空中庭園・・・”とありますが、“人と丹沢の自然に出会える”とコンパクトな表現にした方が、秦野らしさのインパクトがあります。	A	新東名高速道路に予定されている秦野SA(仮称)は、新東名全区間に整備されるサービスエリアやパーキングエリアで、最も標高の高い位置(約250～300m)に整備されるため、コンセプトとして表記させていただきました。ご意見を踏まえて、表記を工夫いたします。
47	土地利用構想	全般的事項	新東名のインターチェンジができれば、即座に商工業や経済が発展するわけではない。本市の魅力は豊かな自然であり、自然と調和した住環境が売りである。インターチェンジの設置による効果をよく分析し、本市にふさわしいまちづくりを考えていく必要がある。	C	現行制度では、スマートICが整備されることによる便益は、交通需要予測調査を基に、走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益によって社会便益を算出しています。ご意見のとおり、この社会便益の効果によって、即座に商工業や経済の発展へ結びつくものではありません。あくまで、インフラ整備でありますので、この機会をいかに活かし、本市にふさわしいまちづくりを考えていかという視点で、全庁的に取り組んでまいります。
48	土地利用構想	全般的事項	上地区(菖蒲)に予定されている秦野IC(仮称)周辺についても、産業系の土地利用を検討すべきである。極端な例ではあるかもしれないが、ひと山削って産業団地を確保する位のことが必要である。	D	国道246号と接続するため、新東名の秦野IC(仮称)が計画されています。上地区では、人口減少が他の地区に比べて進行しており、地域コミュニティや地域活力の低下を招かぬよう、まちづくり委員会の下に設置した「上地区活性化検討協議会」を立ち上げていただき、土地利用も含めて、地元から提案をいただきました。市は、この提案を踏まえて「地域資源を生かした活力ある地域づくりプロジェクト」として上地区活性化計画を策定しています。 現在、この計画の下に地域と連携しながら進めているところですが、開発基調の都市的土地利用を図るというよりは、農地や里山など上地区ならではの恵まれた自然環境を活かし、開発許可制度の緩和策による土地利用を図っていきたくと考えています。
49	土地利用構想	全般的事項	土地利用構想は、新東名サービスエリア周辺部の南北を基軸とした北地区を中心としたエリアに限定している。西地区への北西農産道路や東地区への農産道路といった、東西交通の横軸の影響を含めた、上、西、東地区の都市的土地利用(産業系土地利用)は、読み取れない。周辺部も考慮しているのか。	B	土地利用構想案の土地利用計画のイメージ図では、北地区の秦野サービスエリア上下線周辺地域を対象にし、この地域の一部を産業系土地利用促進ゾーンとしています。 しかし、構想案は、北地区に限定したのではなく、市全体への地域活性化の効果の波及を目指しています。
50	土地利用構想	全般的事項	スマートICの実現と、これを活かした土地利用構想を実現するためには、関係各課等が検討する施設整備や施策の具体化が必要である。平成32年度には、検討だけでなく、具体的な施策が実現するようにしていただきたい。	C	構想の基本的な考え方は、すでに、構想の策定過程において、都市マスタープランや都市農業振興計画、観光振興基本計画にも反映されていますので、関係各課が産業振興、地域振興を図る計画づくりを進めていく必要があります。 具体的な事業を総合計画後期基本計画に位置づけ、重点事業として取り組んでまいります。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
51	土地利用構想	全般的事項	土地利用構想を掲げることは大切であるが、絵に描いた餅とならないようにするには、各課等の具体的な施策が必要である。また、スマートICは、目的ではなく手段であるため、政策部には各課をリードしていただくことを望む。	C	今後は、構想の実現に向け、関係各課が産業振興、地域振興を図る計画づくりを進めていく必要がありますので、政策部がその統括的な役割を果たしてまいります。
52	土地利用構想	全般的事項	スマートICの実現と、この土地利用構想で、秦野市の発展と都市間競争に勝ち抜くことができるか。	D	都市間競争という点では、土地利用構想案に示した産業立地の促進と県内外からの観光客の獲得が重要なカギになると思います。スマートICの誘致を早期に決定させ、地域活性化の気運を盛り上げ、民間活力の誘発、誘導を図り、官民連携で取り組んでいく必要があると考えています。
53	土地利用構想	全般的事項	スマートICの整備や土地利用構想に伴づく基盤整備は、ぜひ進めてほしい。その一方で、何が何でもハード面の基盤整備だけを優先して進めるということではなく、ソフト面も考えながら慎重に進めていただきたい。財務相の諮問機関である財政制度等審議会は、国と地方を合わせた2060年度の債務残高は、8000兆円余りに膨らむという試算を示した。日本の置かれている背景は、人口減少、少子高齢化、経済縮小という状況下にある。本市でも16万8千人台へと人口減少し、農業の担い手も減少、企業(山本海苔)は撤退という傾向にある。こうした負の部分の環境の変化を踏まえて、ソフト面の充実を図るべきである。	C	人口減少社会の到来を見据え、「都市化による開発基調」から「成熟化」へ、また、集約型都市構造への転換が求められています。土地利用構想案では、都市型、開発型の土地利用ではなく、自然環境や農業や観光などの地域資源の活用を前提に導入施設を例示していますので、ご意見を参考にします。
54	土地利用構想	全般的事項	地方都市に行くときよく見受けられるが、立派に駅前周辺整備がなされ、市街地の外にはテーマパークのような立派な施設が整備され、街中は人も歩かず街が潰れているケースがある。スマートICや土地利用構想を進めても、そのようなことにならないように、ソフト面の充実が大切である。健康志向で、スポーツなど高齢者が安価で楽しみ過ごせる環境づくりも必要である。	C	土地利用構想案は、将来の土地利用の基本的な方向を示したものです。構想案では、都市の拡大による開発型の土地利用ではなく、自然環境や農業や観光などの地域資源の活用を前提に導入施設を例示しています。ご意見を参考とさせていただきます。
55	土地利用構想	全般的事項	スマートICの整備や土地利用構想を掲げるのは良いが、昨今の長引く景気低迷が続く中で景気上昇は不明である。企業が新たに産業用地を確保する購買意欲は不透明感がぬぐえない。この時期に工業用地(工業系用途地域)を広げるのはどうかと思う。	D	当該地域は、スマートICが設置されれば、産業立地のポテンシャルが高まります。企業誘致施策と関係しながら、新たな産業用地の創出を図りたいと考えています。
56	土地利用構想	全般的事項	構想の段階で地権者、農業者、児童の保護者に説明していなければ、不信感と混乱を招く。産業系土地利用エリアの地権者とは、構想段階から、一人ひとり面談をし、説明する必要があるのではないか。	D	構想でありますので、即座に地権者や個人の権利等を規制するものではありませんが、土地利用の転換を想定したものであります。今後、地権者や地域住民の意向把握をした上で土地利用の検討を進めます。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
57	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	P1では、秦野市の中心部は「市街化区域」、その周辺部に「農用区域」、その周りを囲むように新東名と246号バイパスが通り、いわゆるドーナツ状に構成されています。図を見る限りでは、道路と市街化区域の間に農用区域があって、農用区域が壁・バリアのような形になっている印象を受けます。もし今後、周辺土地の利用を考えるならば、この「農用区域」の利用転用も視野に入れた開発ビジョンが必要と思う。	C	ご意見のとおり土地利用構想案を策定しており、現在、平成28年3月を目途とした、現行「秦野農業振興地域整備計画」の改定に向けた諸作業を行っています。
58	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	神奈川県で導入されている道の駅は、山北と箱根峠2施設で、近隣の山梨県、千葉県、静岡県では、20以上整っています。今ある施設は、立ち寄り型で集客性の低いものです。今までは違ったイベント性のある道の駅の例として、農産物アウトレット(規格外品)やテント屋根のあるステージやベンチがあり、地域の団体による発表の場や福祉施設作業者の展示販売、工業品の展示、観光案内、秦野名産品の展示販売と宣伝等も含め、また来たくなる道の駅を提案します。	C	・SA内または周辺施設の中で観光案内所を設置することについては検討課題ですが、何らかの形で観光情報を発信することは必要と考えます。 ・県道周辺は、土地利用規制が最も厳しい農振農用区域となっていますので、地元農産物等の販売・加工施設などのように現行法下において設置の可能性が比較的高く、また、SAとは趣の異なる、差別化されたものを中心に検討していきたいと考えています。
59	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	P7に下り線SA周辺の「土地利用配置計画」に沿道サービス施設ゾーンと住宅ゾーンの記述がありますが、上段の土地利用計画イメージ図のどの部分を指すのかわかりません。土地利用計画イメージ図との整合を図る必要があると思います。	A	ご意見のとおり、土地利用計画イメージ図を踏まえた丁寧な記述とします。
60	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	産業利用促進ゾーンには、導入機能の方針が明確に示されていない。製造業なのか、物流施設や商業施設なのか、市の方針を明確に示さなければ、土地利用構想としては、不十分である。	C	導入機能の方針は、誘致する企業の業種のことと理解します。誘致する企業の業種については、土地利用構想案の実現の中で、周辺環境への配慮や分野、規模、雇用など総合的に検討します。
61	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	スプロール化を防止し、集約型都市への転換することが国の方針の流れである。住宅や大型商業施設の立地を目的とした市街化区域の拡大は困難である。市街化区域を拡大するのであれば、物流系の施設を検討することが、国の方針に逆行することなく、本市にとって最も現実的であるのではないかと。	B	秦野サービスエリア(仮称)にスマートICが設置されれば、曽屋原工業地、堀山下テクノパーク等の既存工業団地へ最も近い交通結節点となります。したがって、産業利用促進ゾーンに産業機能の立地誘導を図ることを検討しています。物流拠点の形成は、可能性が高いものと考えています。
62	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	最近の物流・流通施設は、従来の配送センターではなく、加工生産機能を持つ施設が主流となっている。また、倉庫業者が大型商業施設(例/コストコ、イケア)を展開している事例もあり、雇用確保も図られる。高品質な優良ブランド商品等を低価格にて提供しているが、基本は倉庫業の展開である。視野を広く持って研究すべきである。 近年の産業立地の動向や本市の将来を見据えたとき、製造業でなく、物流・流通施設の誘致を視野に入れる必要がある。	A	・誘致する企業の業種については、周辺環境への配慮や分野、規模、雇用など総合的に検討します。 ・インターへのアクセスを考慮すると、成長産業の集積、物流機能の誘致など、積極的な産業集積を図る必要があると思いますので、産業誘導に関して、もう少し力強い表現にしていきたいと思えます。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
63	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	現在、都市計画道路西大竹堀川線(県道706号)は、堀川と堀山下境の新橋交差点で終点となっている。しかし、土地利用構想を踏まえれば、このままという訳にはいかないと思う。この構想を踏まえて、都市計画の線引き見直しの中でも、新たな構想路線や将来交通網を検討していくべきである。	C	現在、都市計画道路の見直しを図るとともに、スマートIC及び市域全体の交通体系を精査し、はだの交通計画の見直しに着手しています。まずは、構想路線化から検討することになります。
64	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	土地利用構想では、県道705号から渋沢駅前落合線に向けて、新たな幹線道路として構想路線の検討を位置づけている。都市計画の第7回線引き見直しでは、市全体の将来交通網を踏まえて検討していくべきである。直ちに都市計画決定等の手続きとなるのか。手続きはどのようになるのか。	C	都市計画における手続きについては、熟度に応じた対応を検討し、将来交通網等については、はだの交通計画の改定において検証することとしています。
65	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	地域振興ふれあいゾーンには、一例として、道の駅や農産物加工所といった施設の検討も含まれるのか。事例で、(株)ファーマーズ・フォレストという民間企業が、農場経営と直売流通、レストラン、温泉宿泊施設等の「道の駅うつのみや ろまんちっく村(46ha)」を運営している。規模は別として、このような施設も検討ゾーンに含まれるのか。	B	・地域振興ふれあいゾーンは、農業や観光など、地域資源を活かした生産、加工、販売、体験など多機能型の交流の拠点を目指します。導入機能の例として、農産物の直売所、加工所、地産地消レストラン、観光・体験農園などを想定しています。 ・農用地区域からの除外を伴わずに設置が可能な施設を前提としています。
66	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	秦野の良好な自然環境を維持して欲しいという考えは、一般市民は当然あると思うが、矢坪沢対岸の農業生産ゾーンも産業利用促進ゾーンとすべきではないか。	D	土地利用構想案では、産業利用の促進と農業生産機能の強化を目指しています。 このため産業利用促進ゾーンの位置については、矢坪沢右岸側の市街化区域に隣接した区域とし、対岸側を農業生産機能の強化を図る農業生産ゾーンとしています。
67	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	土地利用構想を進めるには、県の都市計画の線引き見直しや、農振農用地の見直しといったことに絡む。ぜひとも都市計画と農政との協議・調整をしっかりと調整しながら進めていただきたい。	C	現在、平成28年3月を目途とした、現行「秦野農業振興地域整備計画」の改定に向けた諸作業を行っています。
68	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	土地利用構想では、県立秦野戸川公園や周辺の観光農園との連携の期待とともに、企業にとってはインターチェンジへのアクセスは非常に効果がある。産業系土地利用ゾーンでは、物流施設の立地の可能性が高まる。	C	秦野サービスエリア(仮称)にスマートICが設置されれば、曾屋原工業地、堀山下テクノパーク等の既存工業団地へ最も近い交通結節点となります。したがって、産業利用促進ゾーンに産業機能の立地誘導を図ることを検討しています。物流拠点の形成は、可能性が非常に高いものと考えています。
69	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	産業利用促進ゾーンの位置は、工業系用途地域に隣接しているが、実際、隣接地には住宅が張り付いている。周辺環境を考えると工業系を誘致するのではなく、住居系の土地利用を図るべきである。工業系用途地域にしても、周辺の現況を考えれば、結局は住宅地になってしまうと思う。	D	当該地域は、スマートICが設置されれば、産業立地のポテンシャルが高まります。企業誘致施策と関係しながら、新たな産業用地の創出を図りたいと考えています。
70	土地利用構想	土地利用の導入機能、ゾーニング等	豊かな自然や地域特性を活かした土地利用を図るべきである。例えば、登山客用の大駐車場、都市住民をターゲットとした家庭菜園、温泉があれば、さらに魅力が高まる。	C	地域活性化の方針の一つに「グリーンツーリズムを主体とした都市住民との交流機能の導入」を掲げていますので、ご意見を参考とさせていただきます。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
71	土地利用構想	企業誘致等	秦野SA近隣に、成長産業企業が集積する「工業団地」を造成する。「成長産業」とは、政府の成長産業とする。既存工業団地は、高度成長期の工業団地。今後、既存工業団地からの市税は落ち込んでいくことが予想される。成長産業が集積する新設工業団地をピラミットの頂点に、既存工業団地の技術のレベルアップを図り、将来の秦野市税増加を進める。	A	・誘致する企業の業種は、秦野の自然環境と調和できる活力ある企業で、周辺土地利用構想案の周辺環境に配慮した地域雇用が期待できる分野が考えられます。また市税の増など、本市経済が活性化することなど総合的に検討して行きます。 ・インターへのアクセスを考慮すると、成長産業の集積、物流機能の誘致など、積極的な産業集積を図る必要があると思いますので、産業誘導に関して、もう少し強い表現にしていきたいと思えます。
72	土地利用構想	企業誘致等	今後の市政の失政を少なくするため、「ロボット特区」指定から秦野市が外された理由を検証する。	C	今後の取組みの中で参考とさせていただきます。
73	土地利用構想	企業誘致等	産業用地を整備すれば、すぐに企業誘致ができる時代ではない。土地区画整理事業を行う場合にも、対象業種を見据えて企業誘致を図る必要がある。	C	誘致する企業の業種については、周辺環境への配慮や分野、規模、雇用など総合的に検討します。
74	土地利用構想	企業誘致等	西大竹の東名秦野テクノの工業系土地区画整理事業では、地区計画により、進出企業を限定したことが、企業誘致が遅れた一因になっている。進出対象業種等をよく考えて計画を作る必要がある。	C	誘致する企業の業種については、周辺環境への配慮や分野、規模、雇用など総合的に検討します。なお、東名秦野テクノパークの進出状況ですが、未操業分を含む割合は、面積で9割になります。
75	土地利用構想	企業誘致等	工業系の土地利用を進めるにしても、企業誘致と同時進行でなければ、市街化区域への編入もできなければ、新東名高速道路の開通までに間に合わない。企業誘致を早く進める必要がある。	C	企業誘致の時期は、平成28年3月の農業振興地域整備計画の見直しや、平成28年夏頃の都市計画決定による市街化調整区域への編入に向けた見直しについて、連携して行い、新東名高速道路の開通に合わせて検討して行きます。
76	土地利用構想	その他	初春のウォーキングの季節感として河津桜を植樹する。	D	・市では桜の植樹を積極的に推進しており、平和橋上流から戸川公園までの両岸に「おかめ桜」を植樹済みです。秦野SA整備後に周辺道路等に桜を植樹することは可能と考えますが、関係機関、地権者等との調整が必要と考えます。 ・現在実施しています「さわやかウォーク」や「スマイルウォーク」、「はだの丹沢水無川マラソン大会」等のコースとして検討してまいります。

◆秦野SA(仮称)へのスマートIC誘致実現化及び周辺土地利用構想(案)への意見・提案【79件 H26.6.20時点】

通番	項目	細目	ご意見・ご提案等(パブリックコメント)の内容	区分	ご意見・ご提案に対する考え方
77	土地利用構想	その他	登山客や観光客を引き込むためには、ヤマビル対策をしっかりと行う必要がある。ヤマビルによって秦野の魅力が損われることがないように安心、安全に配慮した施策を展開してほしい。	D	秦野ビジターセンターホームページにて注意を喚起するとともに、大倉尾根登山道入り口でヤマビルに対する注意を看板に掲示しています。ヤマビル対策については、主な運搬動物であるニホンジカの計画的な捕獲等、野生動物対策の実施とあわせ、ヤマビルが生息できない環境づくりを進めることが基本的な対策です。 このため、ハイカーや生活圏内での住民の吸血被害を防止するため、山小屋組合及び農業生産組合・自治会等が行う、草刈り、落ち葉かき、殺ヒル剤の局所的散布など、ヤマビルを生息させない環境づくり活動を支援しています。こうした地域ぐるみでの環境整備活動を引き続き支援していくとともに、県との連携を図り、ニホンジカの管理捕獲の強化や、広域獣害防止柵の補完、改修による山麓部への侵入防止対策を効果的に実施し、ヤマビル被害の防止に努めていきます。
78	土地利用構想	その他	スマートICを活かした土地利用構想であるが、仮にこのスマートICの誘致が難しくても、この構想を踏まえて都市計画を見直していく考えをもっているのか。	D	適切な検討を行うこととしています。
79	土地利用構想	その他	東地区の東中学校先の県道70号から分岐している県道701号(大山秦野線)が、中丸橋手前のT字路付近まで整備されている。しかし、その先が未整備のため、新東名の整備に合わせて、久保橋までと、その先の伊勢原市の大山まで、トンネルで道路整備することを、中日本高速道路(株)に要望すべきではないか。中日本が工事用道路として利用すると聞いていたが、要望しないと機会を失うのではないか。伊勢原市と話をして要望すべきではないか。	D	平成27年度の県の施策等に関する要望書の中でも秦野市小蓑毛の久保橋から伊勢原市大山までの未整備区間は引き続き要望していきます。